

# みみタロウ

日本語版

96号 2012年10月

滋賀県国際協会ボランティアグループ「みみタロウ」  
大阪府大阪市淀川区  
津田町1-1-20 ピアザ淡海2F  
Tel/Fax : 077-523-5646  
E-mail : mimitaro@s-i-a.or.jp  
URL : http://www.s-i-a.or.jp

## 介護職で自立!

今回、みみタロウは、長浜市の湖岸にある特別養護老人ホーム「湖北水鳥の里」を訪問し、佐武晃幸理事長とフィリピンから来日した三人の介護士さんからお話を聞きました。

佐武理事長：日本では、1980年代から「興業」という在留資格で多くのフィリピン女性が来日し、フィリピンパブなどで働きました。そして日本人男性と知り合い、多くの子どもが生まれましたが、その後親が離婚するなどして、フィリピンで暮らす日比混血児は10万人以上もいるとされています。そして、その中には、父親からの養育費の支払いもなく、経済的に苦しい状況にある子どもも大勢います。私は、たまたま訪れたフィリピンでそのような子どもたちと出会い、同じ日本人として強い憤りを感じました。そして、当法人の介護事業に取り込むことで、少しでも彼らの支援に協力したいと考え、2005年より彼らをサポートするNGOや現地の政府機関などと連携を取りながら、対象者に日本語教育を一年間行った後、こちらの介護施設で働いてもらっています。仕事に就くまでのお手伝いしかできませんが、彼らが仕事を持って自立し、父親に放棄されたことを乗り越えて、人生の成功を手に入れてほしいと思っています。



平澤エステラさん：4年前からここで働いています。介護は、人の命を預かる責任のある仕事です。一人一人のお年寄りに合わせた気配りが必要で、お年寄りの言葉や方言、そして文化なども理解しなければならず、なかなか大変です。日本には、私の12歳の娘と一緒に来ました。娘は障害を持っているので、この子のことを考えて、障害者の教育やリハビリが進んでいる日本で働きたいと思いました。彼女は今、公立小学校の特別学級に通学しています。フィリピンではスムーズに歩けなかったのに、こちらに来て歩けるようになったんですよ。他の子どもたちと遊びたいけどうまく言葉で伝えられなかったり、給食が苦手だったりもするのですが、彼女なりに頑張っています。私も彼女が少しでも慣れるように、職場で覚えた日本食を家で作って食べさせたり、日本語や勉強を教えたりしています。それで、私の人生は、職場ではお年寄りの介護の仕事をして、家に帰っても娘の世話をするという大忙しの毎日。でも、とても充実しています。

ホームヘルパーの資格はもう取りました。いつになるかわかりませんが、もっと経験を積んで、勉強して、介護福祉士の

資格を取りたいと思っています。私が年寄りにならない内に合格できますように！



津田アリエザさん：6月に来日して働いています。小さい時は祖母の家で育ち、16歳の時からは叔母の家に住み込んで、八百屋で働いていました。給料は安いし、仕事は、朝4時から夜の11時までの重労働です。フィリピンではあまり仕事がなく、今ここで働けて、とても嬉しいです。母は一昨年に亡くなり、父に会いたくてたまらないのですが、どこにいるかわかりません。いつかお父さんに会えたらいいな、そして、その時私はどんな気持ちになるのだろうと想ったりするんです。日本の食べ物はとてもおいしいし、日本は大好き。それに介護の仕事は楽しいし、今とても幸せです。日本人は長生きだし、みなさん、とてもお若く見えますね！



石田一弘さん：父は日本人で、5歳まで日本で育ちました。日本で仕事をしたいと思い、今年の2月に来ました。仕事をするのは初めてです。介護の仕事ももちろん初めてです。施設ではグループ分けをしてお年寄りのケアに当たりますが、僕のグループでは、20人のお年寄りを11人のスタッフで面倒をみています。僕の仕事は、おおまかには、排泄介助、食事の準備、食事の介助、口腔ケア、ベッドの寝起きの介助などで、記録を記入して終了です。介護の仕事で難しいのはコミュニケーションですが、僕はこれが一番大切な部分だと思っています。日本語はまだわからないことがあったり、通じないことがあって時々困ることがあります。他の職員さんは僕にはゆっくりしゃべってくれますが、つい急いで早く話されるとついていけないし、介護の専門用語もあって難しいです。仕事の記録を書くのも大変で、ひらがなで書いたらいいよ、と言ってもらっていますが、辞書を見ながら、漢字も少しずつ書くようにしています。日本の文化は、フィリピンのとは全く違って、特に時間についてはとても厳しいですね。でも周りの人々が優しくしてくれるし、仕事も楽しいので、頑張ってこの仕事を続けていこうと思っています。